

62

千代田区景観まちづくり重要物件

日本工業倶楽部会館

指定日 2024（令和 6）年 12 月 23 日

所在地 丸の内一丁目 4 番 6 号

設計者 横河民輔、松井貴太郎他

竣工 1920（大正 9）年 11 月

文化財等
指定状況 国登録有形文化財（建造物）

▲日本工業倶楽部会館

歴史・文化的特徴

1917（大正6）年、日本工業倶楽部創立後直ちに倶楽部会館の建設が計画され、約3年後の1920（大正9）年11月に、地上5階、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造の会館が、現在の丸の内に完成しました。

堅牢と優美さを誇った工業倶楽部会館も80年の歳月には抗しきれず、1997（平成9）年、その老朽化、耐震性の欠如、機能更新の必要性から、建替えざるを得ないとの結論に至りました。

建替えに当たっては、日本工業倶楽部が社団法人日本都市計画学会に委託して設置した、学識経験者を中心とする「日本工業倶楽部会館歴史検討委員会」（座長：伊藤滋氏）による保存・再現方法の提案を受け、会館の西側部分を保存、その他の部分を再現し、登録文化財としての歴史的景観の保全を図ることとしました。

意匠・構造の特徴

日本における数少ない本格的なセセッション様式の建物で、全体に、「雅にして堅」を旨としていて、国賓を迎えることを考慮して、入り口にはドリック・オーダーが配され、正面階段も広くとられています。屋上の坑夫と織女の像、正面玄関の石柱、石材等はオリジナルの材料を使用し、主要施設である大会堂、大食堂部分をほぼ完全に保存すると共に、玄関から3階に至る大階段、ロビーについては内装材を保存活用し、内部空間を再現することにしました。また、会館部分全体を免震材の上に載せて、耐震性も高めています。

周辺景観との関係

東京駅の北西側に位置しています。周辺には超高層ビルとして新丸の内ビルディングなどがある中で、大正期の時代性を表現するとともに、工業界のシンボルとしての歴史的景観を形成しています。